2024年3月期第2四半期　連結決算説明会

（2023年4月-2023年9月）

2023年11月24日

マルハニチロ株式会社（TSE：1333）

代表取締役社長　池見　賢

MARUHA NICHIRO

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

目次

■ 2024年3月期第2四半期　事業概況　3 ～ 10 ページ

■ 通期の見通し・施策　11 ～ 20 ページ

■ 企業価値向上に向けた取組み　21 ～ 27 ページ

■ Appendix　28 ～ 34 ページ

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

2024年3月期第2四半期　事業概況

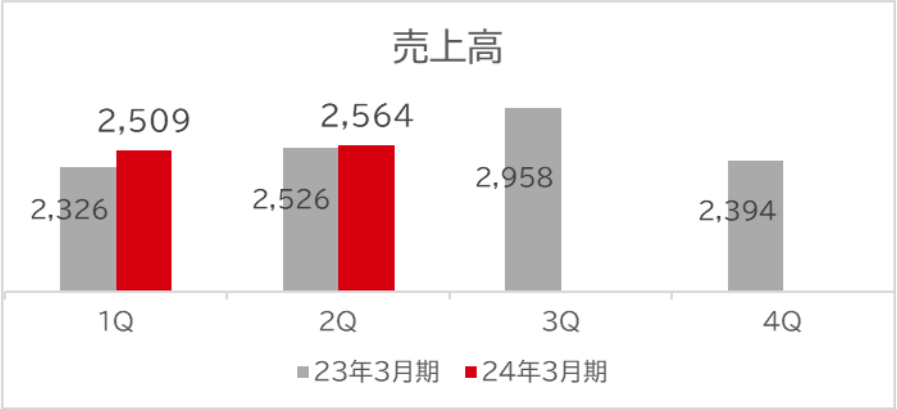
Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

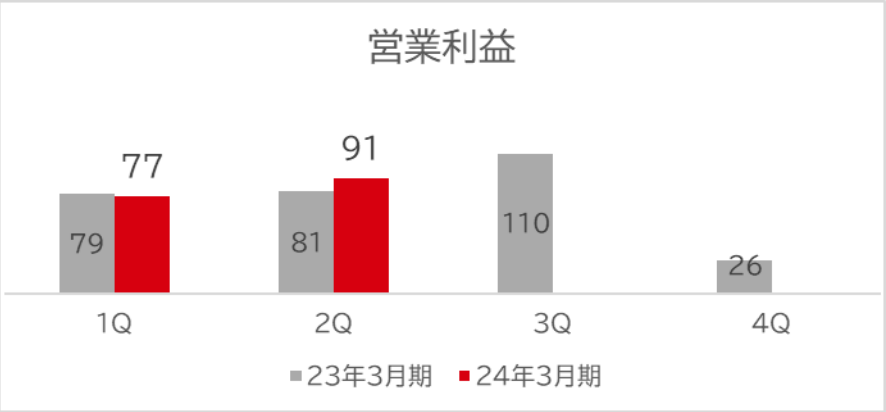
第2四半期　決算ハイライト

事前の予測ほど魚価の下落が顕著にならず、また、前期に実施した加工食品の価格改定を受けて、売上高は前期に引き続き最高値を更新。営業利益は、人流の回復を受けて家庭用・業務用ともに加工食品が増益に寄与。

（単位：億円）

	23年9月期	22年9月期	前年対比		年間計画	
			増減	増減率	計画値	計画比
売上高	5,074	4,852	221	+4.6%	9,800	51.8%
営業利益	168	159	8	+5.2%	270	62.1%
経常利益	209	212	△ 3	△1.4%	270	77.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	109	131	△ 22	△17.0%	185	58.9%





Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

第2四半期決算のポイント

水産資源セグメントは、前年対比で減益。

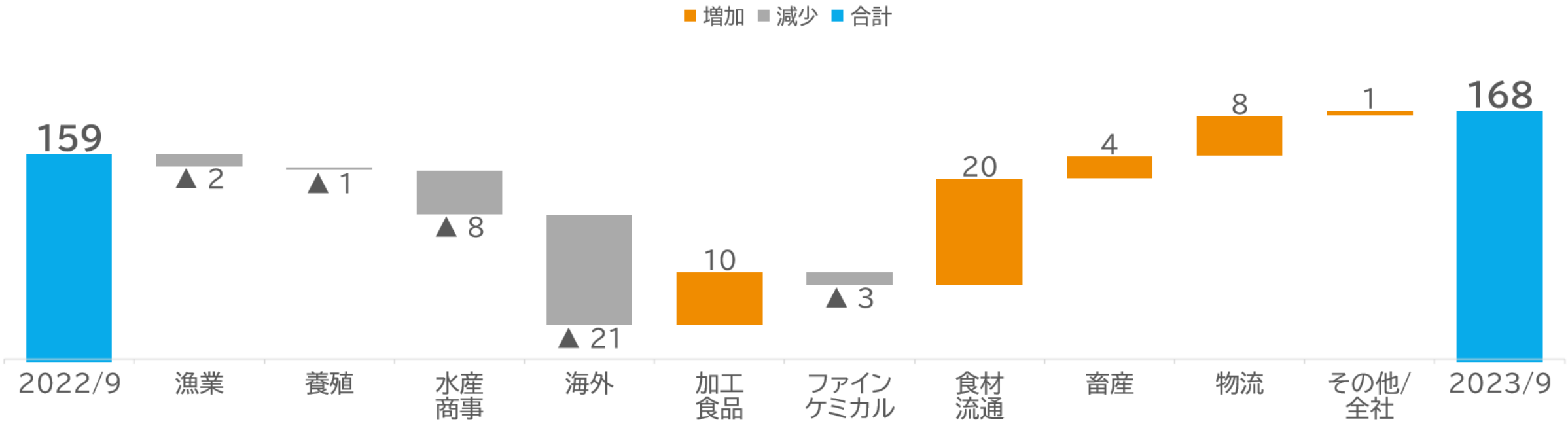
➢ 海外ユニットのスケソウダラ事業（北米）は、相場が軟調に推移したほか、販売遅れが発生。
ペットフード事業（タイ）は、北米における販売先の在庫調整を受けて販売数量が減少し、減益。
（海外ユニット営業利益 44億円、前年対比 △21億円）

加工食品セグメント・食材流通セグメントは、大幅な増益。

➢ 前期より実施の価格改定が浸透したほか、商品の規格変更・商品数削減などによる業務効率化・生産性向上が奏功。
（2セグメント合計の営業利益 72億円、前年対比 ＋32億円）

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

営業利益の増減要因



漁業	養殖	水産商事	海外	加工食品	ファインケミカル	食材流通	畜産	物流
漁船の稼働低下による漁獲数量の減少、燃料費の高騰	飼料代などの高騰による原価上昇	一部魚種の国内における消費減少に対応するため、在庫ポジションを調整	スケソウダラ相場の軟調と販売遅れ(北米)、ペットフード事業の北米向け販売低調(タイ)	価格改定が増益に寄与	販売数量の減少および原料高騰によるコスト上昇	外食・介護食・生協・給食・コンビニエンスストア向け販売堅調。商品数削減などによる業務効率化、生産性向上	畜肉相場の上昇に伴う価格改定、輸入食肉の販売堅調	大都市圏を中心に保管需要が高水準に推移。電気代などコストも価格に反映

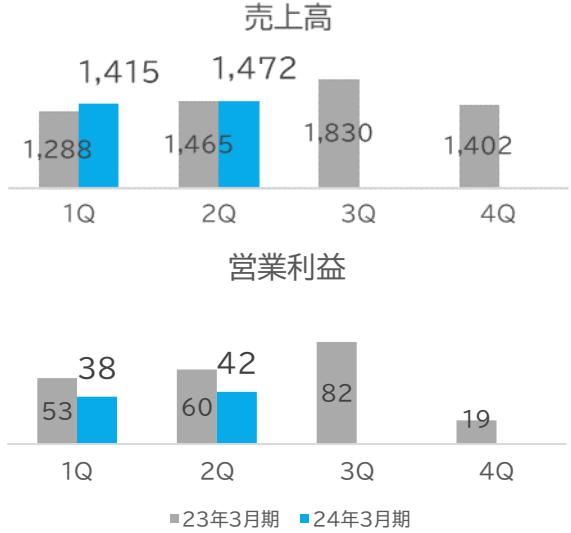
Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

水産資源セグメント

一部魚種の在庫ポジションの調整および、ペットフード事業での販売先の在庫調整影響を受けて、29%減益。

（単位：億円）

ユニット	売上高				営業利益			
	23年9月期	22年9月期	前年対比		23年9月期	22年9月期	前年対比	
			増減	増減率			増減	増減率
漁業	183	168	15	+9.0%	△ 6	△ 4	△ 2	―
養殖	80	80	0	+0.5%	10	11	△ 1	△7.1%
水産商事	1,457	1,444	13	+0.9%	32	40	△ 8	△20.8%
海外	1,167	1,061	106	+10.0%	44	65	△ 21	△32.8%
セグメント計	2,887	2,753	134	+4.9%	80	113	△ 33	△29.2%



- **漁業**　メロを始め、主要魚種の販売好調により増収となった一方、漁船の稼働低下による漁獲数量の減少や燃料費の高騰により減益。
- **養殖**　ブリ・カンパチの販売数量増加および取扱魚種の販売価格が引き続き高値を維持し、売上は前年並みを維持。飼料代などの高騰による原価上昇により減益。
- **水産商事**　水産物全般の相場が高値継続し、売上は前年並み。一方、一部魚種の国内における消費減少に対応するため在庫ポジションを調整し、減益。
- **海外**　＜北米＞スケソウダラ資源の増枠もあり供給は増えたものの、相場が軟調に推移したほか、販売遅れと単価下落が発生し、増収減益。
  ＜欧州＞前期に実施したM&Aの効果により、増収増益。
  ＜アジア＞ペットフード事業が、主要販売先である北米での在庫調整を受け、販売が低調に推移し、減収減益。

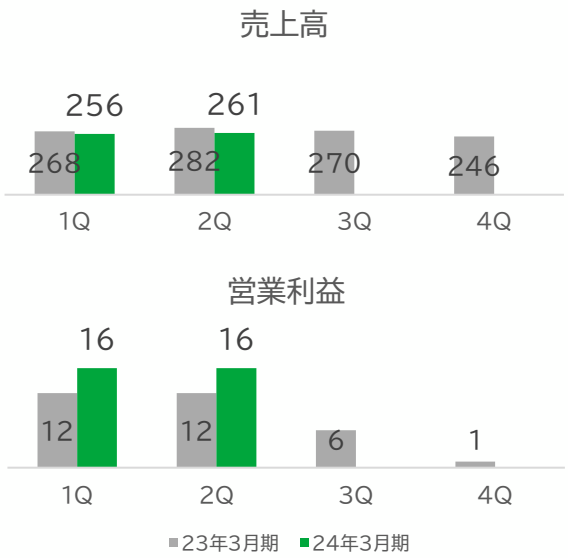
Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

加工食品セグメント

加工食品ユニットでの価格改定の浸透により、全体で32%増益。

（単位：億円）

ユニット	売上高				営業利益			
	23年9月期	22年9月期	前年対比		23年9月期	22年9月期	前年対比	
			増減	増減率			増減	増減率
加工食品	481	510	△ 29	△5.7%	27	16	10	+63.2%
ファインケミカル	37	40	△ 4	△8.8%	5	8	△ 3	△32.1%
セグメント計	518	550	△ 32	△5.9%	32	24	8	+32.1%



- **加工食品**　広島工場の焼失の影響があり減収となった一方、利益面では原材料や円安による影響はあるものの、価格改定が浸透したほか、生産性の向上もあり、増益。

- **ファインケミカル**　機能性表示食品制度の運用変更による販売数量減、およびペルーのアンチョビー禁漁による原料の高騰などにより、減収減益。

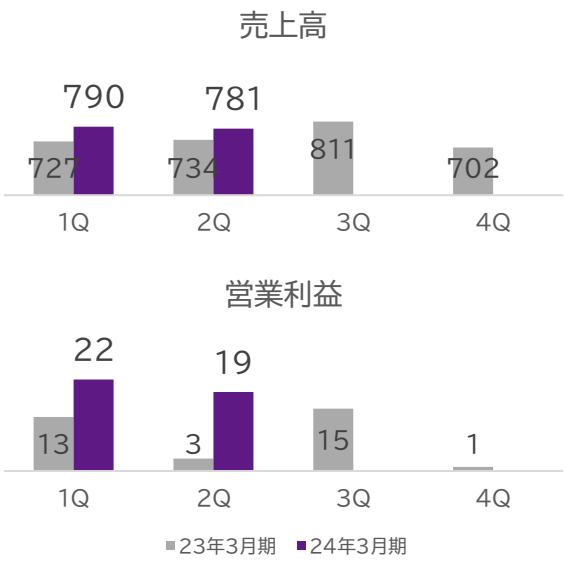
Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

食材流通セグメント

価格改定の浸透に加え、業務効率化や生産性向上が奏功し、全体で158%増益。

（単位：億円）

ユニット	売上高				営業利益			
	23年9月期	22年9月期	前年対比		23年9月期	22年9月期	前年対比	
			増減	増減率			増減	増減率
食材流通	1,084	1,043	41	+4.0%	32	12	20	+174.2%
畜産	488	418	69	+16.6%	8	4	4	+108.6%
セグメント計	1,572	1,461	111	+7.6%	40	16	25	+157.6%



- **食材流通**　外食・介護食・生協・給食・コンビニエンスストア向けなどへの販売が堅調に推移。また、前期に実施した価格改定が浸透したことに加え、商品数の削減などによる業務効率化・生産性向上などに努めた結果、増収増益。

- **畜産**　全般的な畜肉相場の上昇に伴った畜肉製品販売価格の改定実施、および輸入食肉の販売が堅調に推移し、増収増益。

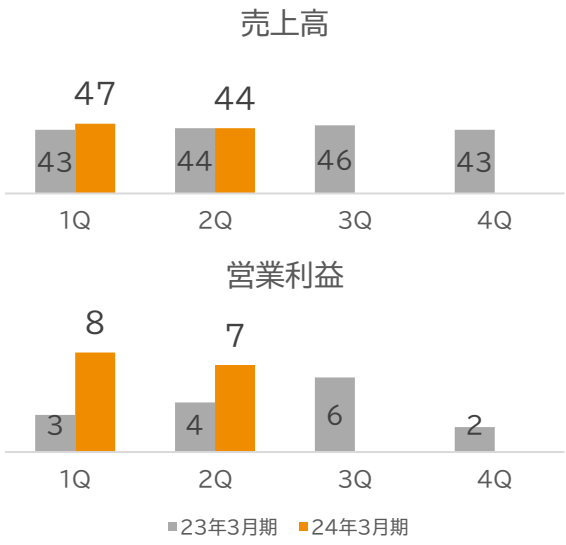
Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

物流セグメント

保管需要を着実に取り込み、106%増益。

（単位：億円）

ユニット	売上高				営業利益			
	23年9月期	22年9月期	前年対比		23年9月期	22年9月期	前年対比	
			増減	増減率			増減	増減率
物流	90	87	4	+4.2%	15	7	8	+105.8%



- **物流**　　大都市圏を中心に在庫数量が高水準で推移したことに加え、電気料金などのコスト上昇を価格に反映したことにより、増収増益。

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

通期の見通し・施策

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

通期の見通し

- 北米スケソウダラの事業環境は、下期も継続する見込み。
- 加工食品は、前期に実施の価格改定が寄与し、下期も増益を見込む。

（単位：億円）

	23年9月期	24年3月期（計画）	年間計画比
売上高	5,074	9,800	51.8%
営業利益	168	270	62.1%
経常利益	209	270	77.5%
親会社に帰属する当期純利益	109	185	58.9%

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

水産資源セグメント

漁業と海外は、引き続き厳しい事業環境を予想。

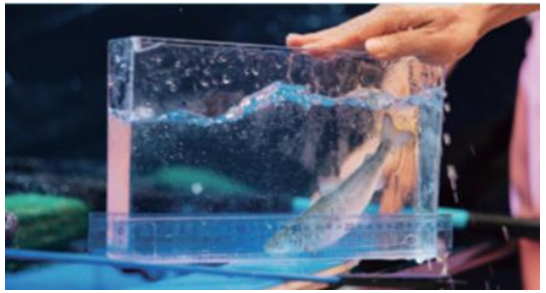
（単位：億円）

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比	23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比
水産資源	漁業	183	168	15	458	40.0%	△ 6	△ 4	△ 2	26	－
	養殖	80	80	0	142	56.5%	10	11	△ 1	2	512.5%
	水産商事	1,457	1,444	13	2,680	54.4%	32	40	△ 8	39	82.0%
	海外	1,167	1,061	106	2,327	50.1%	44	65	△ 21	106	41.1%
	セグメント小計	2,887	2,753	134	5,608	51.5%	80	113	△ 33	174	45.8%

- **漁業**　厳しい事業環境は継続。燃油コスト抑制や操業体制の見直し、自社加工度を高めるなど販売ルートの多様化により、収益性を向上させる。
- **養殖**　燃料・飼料代の高騰による原価上昇、ブリ相場下落を懸念⇒配合飼料の見直しを含むコスト最適化や飼育技術の向上、安定取引先との取組み強化により影響緩和に努める。マグロを含めた、グループ内連携による販売多様化も進める。
- **水産商事**　一部商材が消費減少による販売価格下落傾向によって市場での先安観が広まる一方、調達コストは円安によって高止まり。在庫管理を徹底し安定した利益の確保とともに、年末商戦に向け販売強化。軟調な魚価が継続する一部魚種は在庫ポジションを調整し、年度末に向けて利益を着実に確保する。
- **海外**　＜北米＞スケソウダラ相場は軟調継続。生産品の早期販売を徹底するほか、工場要員の最適配置と生産効率向上によるコスト抑制を図る。
  ＜欧州＞インフレの継続により、低価格帯へ消費シフトし業務筋向けは販売低調。量販ルートを中心に拡販を強化し、収益確保に努める。
  ＜アジア＞販売先での在庫調整は、下期より回復傾向。商品開発による競争優位性を高めるほか、販路開拓で販売数量維持に努める。

アトランティックサーモン陸上養殖に向けて（進捗）

・2022年10月、富山県入善町に三菱商事（株）と合弁でアトランド（株）を設立。
　2025年稼働、2027年度出荷開始（初年度2,500トン予定）をめざす。
・稼働に先駆け、現在は山形県遊佐町にある当社試験場にて、アトランティックサーモンの試験養殖を実施中。
　成育を促進するための飼育条件などを確認している。



（左上）山形県遊佐町にある当社陸上養殖試験場。（左下）発眼卵から育てたアトランティックサーモンの稚魚。体長20cm弱に成長。（中央）視察に訪れた当社社長の池見。2.5kgに育ったアトランティックサーモンとともに。（右）富山県入善町俯瞰図。施設の敷地面積は約7万㎡。

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

加工食品セグメント

需要や環境の変化に対応し、増益をめざす。

（単位：億円）

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比	23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比
加工食品	加工食品	481	510	△ 29	1,036	46.4%	27	16	10	33	80.5%
	ファインケミカル	37	40	△ 4	80	46.0%	5	8	△ 3	14	38.1%
	セグメント計	518	550	△ 32	1,117	46.3%	32	24	8	47	67.9%

- **加工食品**　消費者の節約志向に伴い、数量は前年割れが続くものの、単価アップと生産性向上により収益は前年を上回る見込み。原材料・資材などのコストアップや円安の進行がある場合は、適宜商品の見直しや価格改定を検討。

- **ファインケミカル**　既存商品での機能性表示食品の表示適格取得や、医薬原薬（EPA、ヘパリン）の取扱い拡大に向けて取り組み中。「予防食、未病食」分野は、食品分野への展開をめざし「無臭DHA」を開発中。今後、介護食品をはじめとした加工食品への展開をめざし、グループ内連携を図る。

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

北米冷凍食品事業参入に向けた取組み（ワッフルワッフル社）

2023年8月、当社開発担当者が携わった新ブランド“Laughing Tiger”が米国上市、約2,000店舗での販売開始。高品質のオーセンティックなアジアンフード。

＜今後の成長戦略＞

ワッフルワッフル社は、北米における先端トレンドを捉えるマーケティング・企画・開発力および販売網を有するファブレス企業（展開ブランド：Happi Foodi®他）。同社の持つノウハウと、マルハニチロが持つ総合力で、今後の北米における冷凍食品事業を拡大していく。

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

食材流通セグメント

販売チャネルごとにおける環境の変化に対応し、増益をめざす。

（単位：億円）

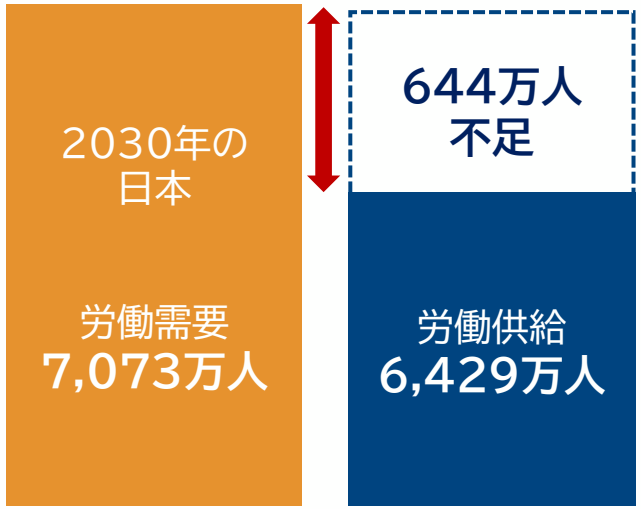
セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比	23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比
食材流通	食材流通	1,084	1,043	41	2,125	51.0%	32	12	20	29	110.6%
	畜産	488	418	69	761	64.1%	8	4	4	9	91.6%
	セグメント計	1,572	1,461	111	2,886	54.5%	40	16	25	38	106.1%

- 食材流通　円安や地政学的リスクなどによる原材料・エネルギー価格などの高騰リスクはあるものの、環境の変化に対応し、通期での大幅な増益をめざす。

- 畜産　調達コスト上昇を理由に販売価格が高値推移し、低価格志向の市場ではより安価な畜種・商品へ需要がシフト。輸入牛・豚における業界全体の在庫が増加し、鈍い荷動きが予想される。国内外の多様な調達網を活用して市場ニーズに対応するほか、グループ内連携を進めることで収益の最大化を図る。

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

国内の業務用食品市場を取り巻く課題



出典：パーソル総合研究所　※失業者61万人を除く

正社員の人手不足割合（上位 10 業種）

(%)

		2021年7月	2022年7月	2023年7月
1	情報サービス	54.7	64.9	74.0
2	旅館・ホテル	22.5	66.7	72.6
3	建設	57.5	62.7	68.3
4	メンテナンス・警備・検査	53.8	59.8	68.2
5	飲食店	43.6	54.1	66.3
6	運輸・倉庫	47.1	59.4	64.3
7	医療・福祉・保健衛生	43.5	52.9	62.3
8	金融	41.2	56.5	60.9
9	自動車・同部品小売	57.1	57.8	59.5
10	人材派遣・紹介	43.8	52.2	58.9

非正社員の人手不足割合（上位 10 業種）

(%)

		2021年7月	2022年7月	2023年7月
1	飲食店	56.4	73.0	83.5
2	旅館・ホテル	39.5	55.3	68.1
3	人材派遣・紹介	41.8	55.4	65.8
4	各種商品小売	48.8	56.5	56.6
5	飲食料品小売	41.4	54.5	53.6
6	農・林・水産	34.4	48.5	52.1
7	メンテナンス・警備・検査	44.0	45.9	50.3
8	娯楽サービス	31.7	40.8	50.0
9	金融	22.9	33.1	48.7
10	専門商品小売	31.7	40.9	44.7

出典：帝国データバンク「人手不足に対する企業の動向調査（2023年7月）」　※母数が20社以上の業種が対象

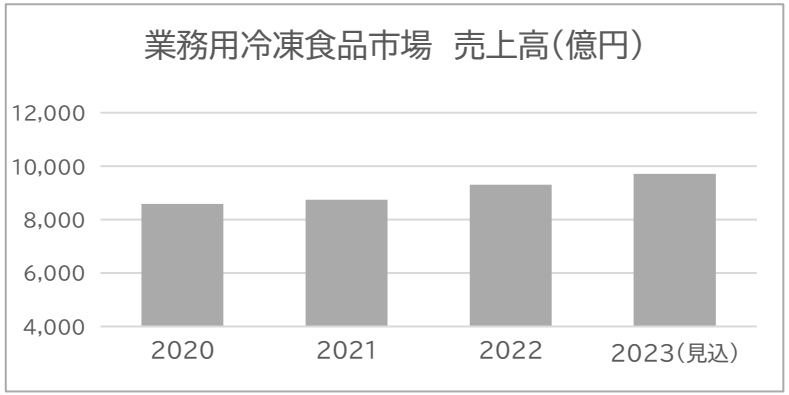
【外部環境】
・少子高齢化による生産人口の減少
・外食・中食業態の需要回復傾向にもかかわらず
　人手不足割合は高止まり

【外食・中食市場における課題】
・調理技術を習得した人材不足
・業務負荷増加による生産性効率の低下
・タイムリーな対応ができないことによるチャンスロス

【食品メーカーに求められるニーズ】

・調理現場の負担を限りなく軽減できる商品
　例）同時調理可能、調理工程減少、調理技術・人数不要

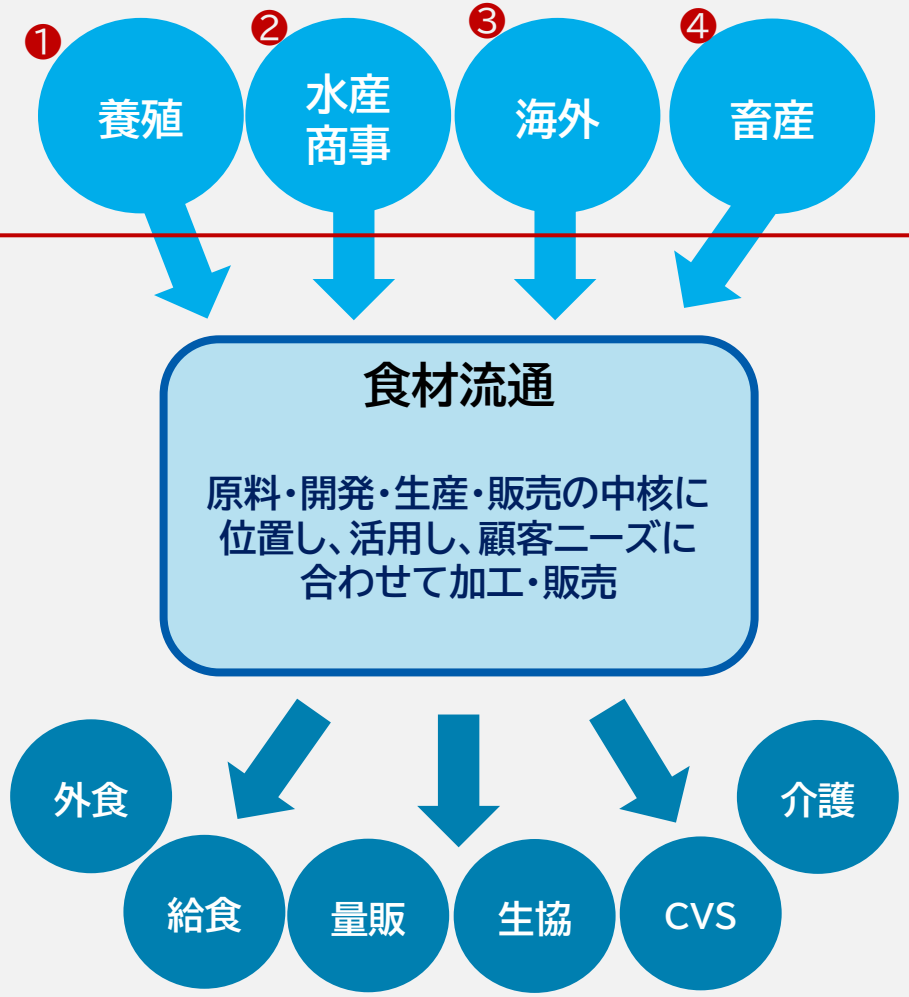
・調理加工品とは分からないような手づくり感や再現性の高い商品の供給



出典：TPCマーケティングリサーチ（株）「業務用冷凍食品の市場分析調査」

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

食材流通ユニットの仕組み



グループの総合力を最大限に生かす

＜一例＞
❶クロマグロ、カンパチ、ブリを寿司ネタ用に加工。
❷海外＆国内で調達した魚を切身やフライなどに加工。
❸調達したスケソウダラをフライや練り製品、介護食に加工。
❹調達した畜肉を使用して唐揚げや焼き鳥などに加工。

＜取扱商材＞

寿司・刺身向けネタ
おにぎり向け具材
水産調理品（切身、フライ、天ぷら、唐揚げ、練り製品）
畜肉調理品（唐揚げ、カツ、ハンバーグ、コロッケなど）
麺類
米飯
冷凍野菜
和惣菜
洋惣菜
デザート
介護食品　など

・多様なユーザーニーズに応えられる
・多彩なカテゴリ・販売チャネルに対して総合的な提案が可能

＜当社ならではの強み＞

水産商事ユニットに属していた直販部門と、業務用冷凍食品を扱っていた部門が食材流通ユニットとして2022年度に統合。

水産品の取扱いが少なかった量販惣菜、CVS、給食ルートへの販売拡大を実現。
＊2022年度実績：売上高＋24億円
＊今期は前期の倍増を見込む。

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

物流セグメント

逼迫する保管スペースの需要に応じた確保と積極的な集荷に努め、売上拡大をめざす。

（単位：億円）

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比	23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比
物流	物流	90	87	4	186	48.6%	15	7	8	15	99.8%

- **物流**　低調に推移する荷動きや保管スペースがタイトであることによる搬入量の減少が懸念されるものの、価格改定による増収効果、および電気・ガス価格の激変緩和対策の継続を含めた動力費の負担軽減もあり、前年対比で増収増益の見通し。
  下期も継続して、保管需要に応じた保管スペースを確保するほか、スポット貨物を含めた積極的な集荷に努め、売上拡大を図る。

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

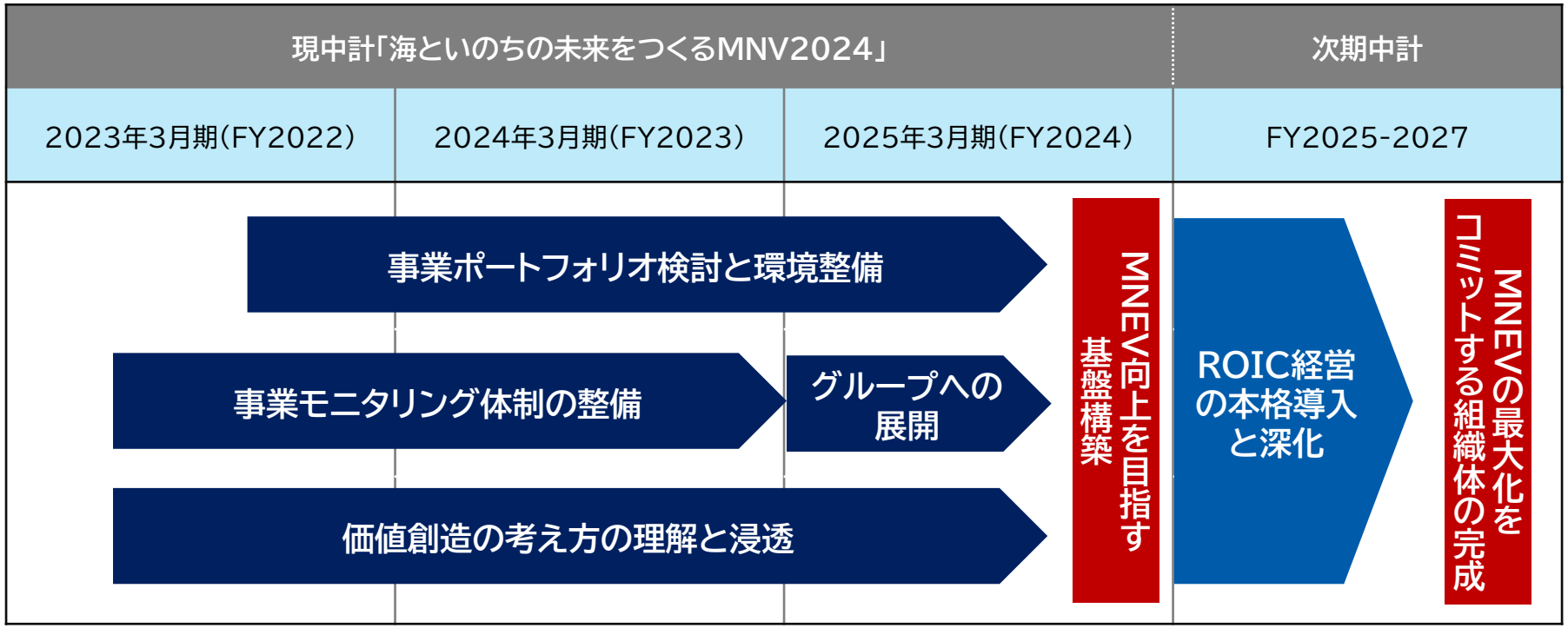
企業価値向上に向けた取組み

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

価値創造経営の実践に向けて

現中期経営計画の期間中に、各事業のMaruha Nichiro Economic Value（MNEV）およびROICを中心としたKGI・KPIの進捗に応じて事業評価を実施。次期中計（2025～2027年度）に向けて、事業ポートフォリオの再編を見据えた準備・検討も行う。

価値創造経営の実践に向けたロードマップ（一部抜粋）



Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

人的資本への投資と、従業員の経営への参画意識を促進

＜従業員向け株式給付制度の導入＞

株価および業績向上への従業員の意欲や士気を高めるため、従業員である管理職の一部に対して自社の株式を給付する制度を導入。

・取得資金として信託する金額；2億5千万円
・取得株式の種類と取得方法　：当社普通株式を、取引所市場より取得
・取得期間：2023年11月13日～11月20日

経営への参画意識の醸成・促進

エンゲージメント向上

従業員の財産形成

＜従業員持株会への奨励金率アップ＞

2023年9月1日より従業員持株会加入者に対し、従来の奨励金率を＋5pt増やしたうえ、拠出回数に応じて段階的に支給率の引き上げを決定。

・**持株会加入率　約30%に倍増**
・**拠出口数　　約3倍に増加**

今後は対象者のさらなる拡大も検討

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

フードロス削減に関わる取組み

詳細はこちら

当社・物流会社・フードバンクの三者連携による冷凍食品の持続的な寄付スキーム構築の取組みが
「令和5年度食品ロス削減推進表彰」消費者庁長官賞を受賞。業界大手が取り組むことによる
他社への波及効果と将来性、冷凍食品の寄附という先進性が評価された。※

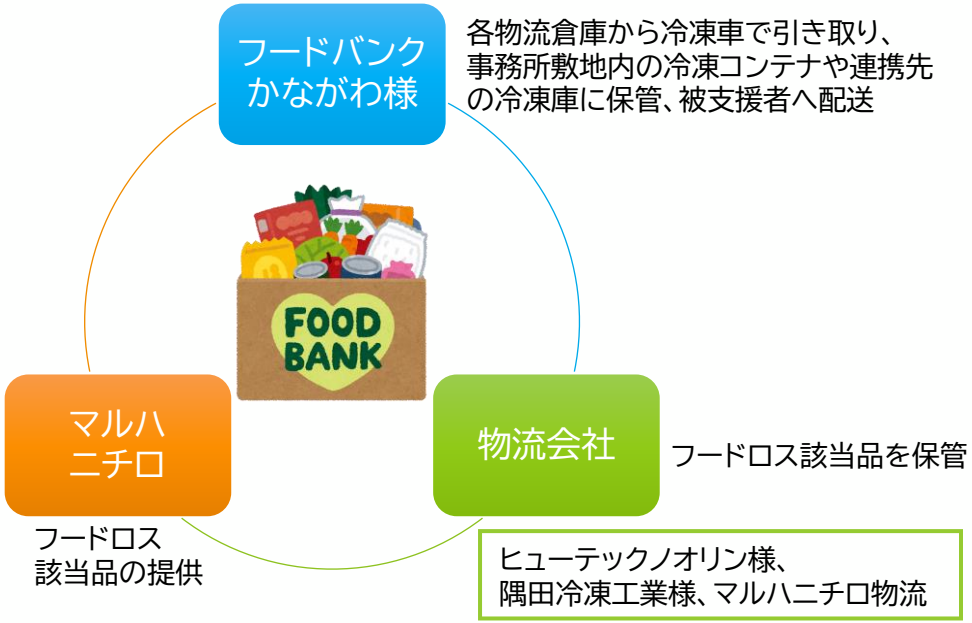
※「令和5年度食品ロス削減推進表彰」審査委員長講評より。「令和5年度食品ロス削減推進表彰」についてはこちら

(右)授賞式に出席した小門常務執行役員

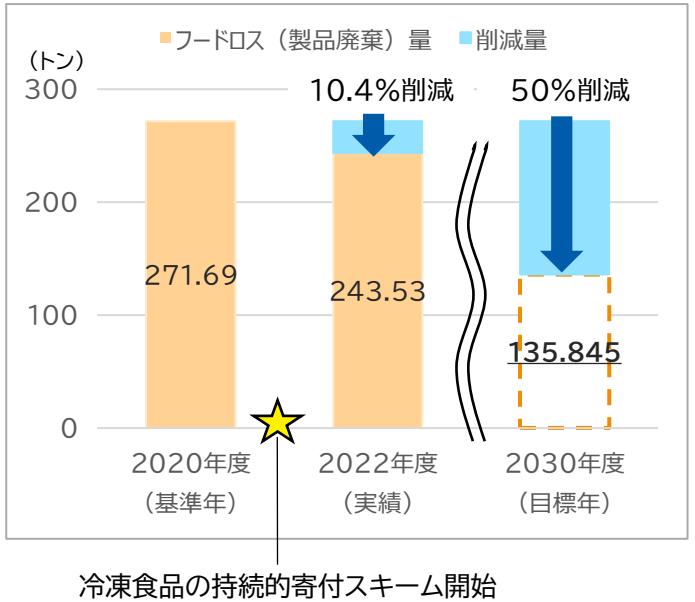
＜当社フードロスの主な要因＞
輸入時に発生する外装不良品や、通関での抜き取り検査後の箱開封品など、正規商品として扱えない冷凍食品が全体の9割。

＜これまでの課題＞
・配送コストと手間
・温度変化による品質低下

保管倉庫から一度に多くの商品を冷凍配送でき、寄付先のフードバンクなどでも温度担保可能な冷凍保管設備が必要



2030年度に向けたマルハニチログループ
国内全体のフードロス削減量



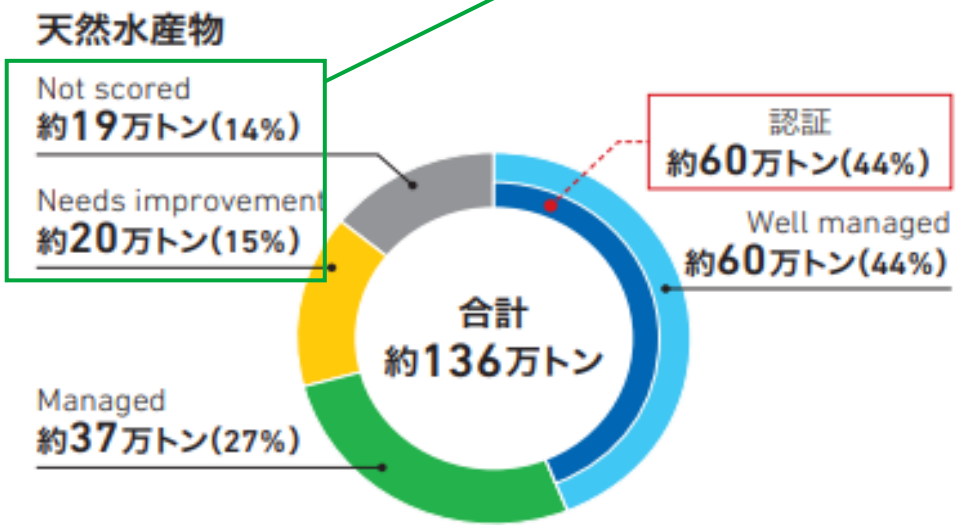
今後はPB品への展開や、他地域における同様の連携可能性を検討

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

生物多様性と生態系の保全

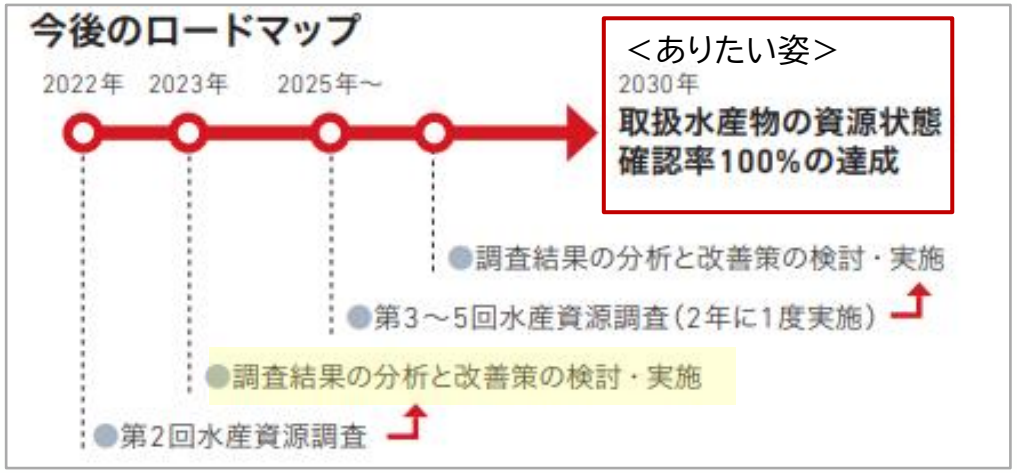
詳細はこちら

第2回水産資源調査（調査対象年度：2021年度）を実施。
当社グループの取扱実績は原魚換算で約170万トン。
そのうち約136万トンが天然水産物。



＜課題＞
①養殖魚の飼料原料での分類不可魚種がある
②サプライヤーからの情報不足、調査機関の情報不足による、分類不可魚種がある
③資源状態に不安があり、改善が必要な魚種がある

＜課題に対する今後の対応＞
①サプライヤーに対しての情報提供の働きかけと改善に向けた協議開始
②各サプライヤーに対する働きかけ（次回調査での改善）
③SFPへの情報提供のため、漁業を管理している行政への働きかけ



＜TNFDフレームワークに沿った生物多様性リスクの情報開示について＞
自然資本への影響度・依存度が高い当社グループは、今後TNFDフレームワークに適応した生物多様性のリスク評価方法を確立し、次年度中には事業におけるリスクと機会を抽出・開示してまいります。

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

SeaBOS：持続可能な水産物の生産と健全な海洋環境の実現

SeaBOS

世界の大手水産会社が参画する、海洋管理のためのグローバルなイニシアチブSeaBOS（Seafood Business for Ocean Stewardship）の取組みに、2016年の立ち上げから参画。グローバルな視点で世界の海洋管理の保全、IUU（違法、無報告、無規制）漁業や強制労働などの課題解決に積極的に取り組んでいます。

SeaBOSの取組み（タスクフォース）

- ・IUU漁業、強制労働・児童労働排除への取組み
- ・絶滅危惧種への取組み
- ・抗生物質使用削減への取組み
- ・気候変動対策への取組み
- ・海洋プラスチック問題への取組み

SeaBOS 日本3社合同海岸クリーンアップ 2023
2023年7月29日（土） 開催地：いなげの浜（千葉県千葉市）

SeaBOS Keystone Dialogue CEO会議
2023月10月 開催地：韓国・釜山

SeaBOS Impact Report

2023年10月17日
2022～2023年の活動進捗状況をまとめた「SeaBOS Impact Report」を発表

詳細はこちら（英語のみ）

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

統合報告書2023・サステナビリティレポートを発行しました

https://www.maruha-nichiro.co.jp/corporate/sustainability/report/

統合報告書冊子版をご希望の場合は、下記までご連絡ください。
経営企画部IRグループ　ir-info@maruha-nichiro.co.jp

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

Appendix

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

2024年3月期 第2四半期 連結損益計算書

（単位：億円）

	23年9月期	22年9月期	増減	主な内容
売上高	5,074	4,852	221	
売上原価	4,377	4,170	207	
売上総利益	696	682	14	
販売費・一般管理費	529	523	5	
営業利益	168	159	8	
営業外収益	60	65	△ 5	為替差益(26)
営業外費用	19	12	7	
経常利益	209	212	△ 3	
特別利益	2	25	△ 23	
特別損失	32	25	7	損害賠償金(2)、損害賠償損失引当金繰入額(16)
税金等調整前四半期純利益	179	212	△ 33	
法人税等	56	54	2	
非支配株主に帰属する四半期純利益	14	27	△ 13	
親会社株主に帰属する四半期純利益	109	131	△ 22	

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

2024年3月期 第2四半期 連結貸借対照表

（単位：億円）

	23年9月末	23年3月末	増減	主な内容（前期末比）
流動資産	4,202	3,926	276	現預金（△20）、売上債権（+166）、棚卸資産（+116）
固定資産	2,525	2,446	79	有形固定資産（+11）、無形固定資産（+13）、投資有価証券（+42）
資産合計	6,727	6,372	355	
流動負債	2,637	2,654	△ 18	仕入債務（+51）、短期借入金（△152）
固定負債	1,776	1,593	184	社債（+130）、長期借入金（+61）
負債合計	4,413	4,247	166	
株主資本	1,713	1,636	76	利益剰余金（+76）
その他包括累計	234	147	87	
非支配株主持分	367	342	25	
純資産合計	2,314	2,125	189	
負債純資産合計	6,727	6,372	355	
有利子負債	3,050	3,011	38	（社債+130を含む）
自己資本比率	28.9%	28.0%	1.0	

【資産の増加+355億円】
・魚介類・畜産物の販売好調による売上債権の増加
・季節要因（北米スケソウダラ、他）による棚卸資産の増加
※在外子会社資産の為替換算影響+163億円含む（円安）

【負債の増加+166億円】
・運転資本の増に伴う有利子負債の増加
・仕入債務や営業未払費用の増加

＜ご参考：22年9月末＞
有利子負債　3,137億円
自己資本比率　26.6%

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

2024年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：億円）

	23年9月期	22年9月期	増減	主な内容
営業活動による キャッシュ・フロー	89	△ 305	393	・税金等調整前四半期純利益（+179） ・減価償却費（のれん含む）（+87） ・売上債権の増減額〈増加：△〉（△139） ・棚卸資産の増減額〈増加：△〉（△57） ・仕入債務の増減額〈減少：△〉（+27） ・その他流動負債の増減額〈減少：△〉（+29） ・法人税等の支払額（△39）
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 57	△ 182	124	・有形固定資産の取得による支出（△61） ・無形固定資産の取得による支出（△9） ・利息及び配当金の受取（+10）
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 69	442	△ 511	・短期借入金の増減〈減少：△〉（△151） ・長期借入金の増減〈減少：△〉（+15） ・社債発行による収入（+129） ・配当金の支払額（△33） ・非支配株主への配当金の支払額（△12） ・利息の支払額（△15）
現金・現金同等物の 期末残高	312	219	93	—

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

Appendix

2024年3月期 第2四半期 セグメント・ユニット別　実績

（単位：億円）

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比	23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比
水産資源	漁業	183	168	15	458	40.0%	△ 6	△ 4	△ 2	26	－
	養殖	80	80	0	142	56.5%	10	11	△ 1	2	512.5%
	水産商事	1,457	1,444	13	2,680	54.4%	32	40	△ 8	39	82.0%
	海外	1,167	1,061	106	2,327	50.1%	44	65	△ 21	106	41.1%
	セグメント小計	2,887	2,753	134	5,608	51.5%	80	113	△ 33	174	45.8%
加工食品	加工食品	481	510	△ 29	1,036	46.4%	27	16	10	33	80.5%
	ファインケミカル	37	40	△ 4	80	46.0%	5	8	△ 3	14	38.1%
	セグメント小計	518	550	△ 32	1,117	46.3%	32	24	8	47	67.9%
食材流通	食材流通	1,084	1,043	41	2,125	51.0%	32	12	20	29	110.6%
	畜産	488	418	69	761	64.1%	8	4	4	9	91.6%
	セグメント小計	1,572	1,461	111	2,886	54.5%	40	16	25	38	106.1%
物流	物流	90	87	4	186	48.6%	15	7	8	15	99.8%
その他		7	2	5	4	175.0%	5	1	3	2	237.5%
全社		－	－	－	－	－	△ 4	△ 2	△ 2	△ 6	－
合計		5,074	4,852	221	9,800	51.8%	168	159	8	270	62.1%

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

2024年3月期 第2四半期の海外売上高

海外売上高	2023年3月期 2Q	2024年3月期 2Q	2025年3月期（中計最終年度）
	1,035億円	1,139億円	2,150億円

海外売上高比率	2023年3月期 2Q	2024年3月期 2Q	2025年3月期（中計最終年度）
	21.3%	22.4%	22.4%

欧州

2023年3月期 2Q 400億円 → **2024年3月期 2Q 533億円** 前年同期比 ＋33%

北米

2023年3月期 2Q 290億円 → **2024年3月期 2Q 236億円** 前年同期比 △19%

アジア

2023年3月期 2Q 247億円 → **2024年3月期 2Q 262億円** 前年同期比 ＋6%

その他 地域
2023年3月期 2Q 98億円
2024年3月期 2Q 108億円 前年同期比＋10%

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

お問い合わせ先

マルハニチロ株式会社　経営企画部　IRグループ
ir-info@maruha-nichiro.co.jp

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

Thank you

Copyright ©2023 Maruha Nichiro Corporation

MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他本書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。